
勇者兼商人兼職人兼妖精魔導士です。。

本気ノ馬鹿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者兼商人兼職人兼妖精魔導士です。

【Nコード】

N0417Z

【作者名】

本気ノ馬鹿

【あらすじ】

高校生で一般人な主人公が事故で死に転生！

勇者だったり商人だったり成りたいものに片っ端からなれたらなあと思います、癒やし系やツンデレ系を取り揃えようと思います。

テンプレかもハーレムかも転生かもです。

2500〜3000字にしようと思います。

プロローグ：まずは死ぬところから（前書き）

書き置きなしで最初は一日2話から3話上げていこうと思います。
それじゃよろしくお願いします。

プロローグ：まずは死ぬところから

生前の俺

ネットゲームが大好きで学校も休みがちだった、だからと言って引き籠りじゃない。

いまだき珍しくもない普通の高校生がゴールデンウィーク期間に入り、休み中はバリバリにネットゲームしまくるぜ！ってテンション上げて夜中に夜食を買いにコンビニに行ったら、車に轢かれてしまった。

バッドエンドのデッドエンドで人生中途半端にして終了、夢なかばに終了。

親孝行も出来ずに、好きな子に告白もできずに、将来お金持ちになる夢も成し遂げられずに、あっけなく死んでしまい、人生を終了してしまった。

「俺の人生あっけねえ、やり残したこといっぱいあったのになあ」

ちなみに皆さんは転生って、言葉を聞いたことあるでしょうか。

今、俺の前には光り輝く、偉そうで眩しいオジサンがいて、校長室みたいなところにいる、PCがあってソファーがあって本棚もある。

（これは転生フラグかなあ、やっぱり俺も神様の間違いとかで死んじやったパターンなのかな？）

「別に間違えてなどおらんよ、御主は確かにあそこで死ぬ運命じゃった寿命道理にしんでおるよ」

優しくて綺麗な声だった、別に敬語だったり腰が低かったりせず普通に優しくなお爺さん

「やっぱり神様だと人の心が読めたりするんだ」

「まあ神様じゃからな、あと心配せんでもちゃんと転生はさせてや

る」

「神様の間違いじゃないのに転生できちゃうの？」

「まあ神様は万能じゃし死んだ人間には好きにさせてあげないと可哀想だから、ちなみに一度死んだら同じ世界での転生は無理じゃ、似たような世界などはあるが全く同じ世界は無いので現実問題、同じ世界には転生できん。」

（誰でも転生出来んのかよ）

「ほっほっほ、転生出来る人間は生前に善行を重ねたものや、何も成し遂げぬまま死んだり、やり残したことがある人間じゃ、未練もなく、将来も無いものは、そのまま無に帰るのじゃよ」

「あれ？未練なくて死んだ人間は記憶消してまた生まれ変わるんじゃないの？」

「記憶を消して生き返らせても意味などないのじゃ、普通に新しい人間しか生まれることはできん」

（なるほどお、むずかしいなあ）

「分かったような分からないような感じだな」

「まあ適当な説明だしの、そんな事は人間には教えんし理解も出んだろ」

「今の説明適当だったのかよ」

「ほっほ、愉快な人間じゃまだ話していたいがそろそろ転生の説明をさせてもらいたい」

「どうぞー」

「お主が転生できる世界は簡単に4つほどある全て剣と魔法の世界じゃ

一つ目は、剣寄りの世界で種族は少ないが、文明が他に比べると一番進んでおる、魔法がないので戦争や複数の敵への殲滅が難しくなるの、その分剣技や物理的な武器がたくさんある、この世界の魔法に関してだが難しく効果も薄い身体能力をあげたり武器の強度を上げられるぐらいじゃな魔剣なども多くあるのお、剣で最強を目指し

たいならおすすめじゃな。

二つ目は、魔法寄りの世界で種族が多く妖精などもいるが、文明が他の世界に比べて一番遅れておる、だが魔法の応用がかなり効くのう、回復だったり身体強化など、それに剣の世界とはまた別の文明を持ち違う意味で発達しておる、戦争や戦闘などでは遠距離戦になりがちじゃが殲滅しやすく威力も高い、御主の知識が最も役に立つだろう世界じゃ、それに魔法を連発して無双するのも楽しそうじゃの。

三つ目は、前者二つを足して割った感じの文明じゃ、この世界にはロボットや機械などの技術をメインに特化した世界じゃ、特化はしてないが剣も魔法も使える、剣の世界程ではないが魔剣もあるがこの世界だと魔力を持つ機械の作成などのほうが楽しそうじゃな剣でロボットを圧倒したりできるのお、要するにロボットが好きなら楽しい世界じゃな。

四つ目は、レギウスと言う世界で一番のおすすめじゃ剣も魔法も盛りだくさんじゃ、他の世界で見られる種族は全て揃えておるもちろん妖精もじゃ、文明は船も馬車もあるし場所によって進んでたり遅れてたりしておる、進んでいる場所だとシヨボくて暗いが電気のライトぐらいはあるしロボットや機械なども一部だが発達しておる。何よりこの世界は広い、とにかく広くほかの世界に比べると2倍近くある、冒険するにはもってこいじゃの、つまり剣も魔法も機会も全部良い所取りした世界じゃ

まじゃ」

「四つ目の世界推しすぎだろ、それ以外の世界の説明に比べると長くてほかの世界の説明は忘れちゃったよ。」

「ほっほ、四つ目以外はあまり楽しくないからの」

「んじゃ四つ目で、何か能力とかくれるの？チートとか従者とか」

「これはいくつか準備してある、99ポイントを能力などに振って行けば良い」

このPCを使ってくれ」

「おおー分かり易いじゃん、んじゃちよつと失礼」

まず目に付くのは「基本系」身体能力の向上(3)、学習能力の向上(5)

魔力増加(1~5)、魔力回復速度(2~8)、魔力属性選択(2)
種族選択(2)、etc

「魔術・魔法系」全魔術・魔法・魔導の指南書(5)、魔力属性追加(5)

「アイテム・装備系」祝福の水筒(4)、聖剣1vMAX(7)、魔剣1vMAX(6)

神のローブ(3)、神の軽装備(3)、神の重装備(3)・etc
「特殊能力」武器防具作成(10)、不死(5)、起死回生(15)
自分用の空間(3)、武器熟練値MAX(10)、鑑定(7)、千里眼(7)

植物の主(10)、生物の主(10)、幸運(3)、etc
「従者」家庭的メイド(10)、万能メイド(23)、妖精(20)
創成と闇の妖精(35)、終わりと光の妖精(35)、etc

「まずわかりにくいものの説明をすると、種族選択とはこの世界に存在する種族や新しく作る種族を選べる、魔力属性とは(火、水、土、風、雷、闇、光、影、etc)の中から好きなものを選べる、魔力属性追加は二つの属性を使えるようになる火は攻撃系闇は火水土風雷全てに有利になるだが光に弱くなるそして、光は防御力が高いが攻撃力が低い、影は最も1vが上げにくく戦闘力が低い影の中にアイテムなどを入れたり便利系能力じゃ

1vを上げやすい順番は風「水土」火雷闇光影の順じゃ

それから祝福の水筒は、水が無限に湧いてしかも体力回復や異常状

態回復などができる、自分用の空間とは簡単に言えば無限にものが入るカバンだったり、別荘用の空間じゃ人もモンスターもいない場所じゃな。

生命の主は動物や魔物魔獣を支配できるようになる植物の主は植物を無尽蔵に生やしたりできるようになる」

「35ポイントの妖精は何？それから俺が行く世界は1v制なの？」

「基本的にはスキル制だと考えてくれ、ただ魔力属性は生まれつきで変えることも貰うこともできないしHPやMPを数値化したりもしてくれない」

「じゃあ覚えられるスキルには限度がある？」

「属性を除いた装備スキルを10個まで職業スキルを2個までストックを11個じゃスキルは戦闘中じゃなければ破棄できる」

「まんまネットゲじゃん・・・そこらへんの操作は頭の中でやるの？」

「あちらの世界で専用のアイテムがもらえる、それからスキル」動作補助とを考えてもらったほうがいいの」

「んゝ了解」

「それから35ポイントの妖精は二人揃えば最終的にすべてのことができると考えてくれポイントを無限にもちすべての能力をMAXまで振ったかんじじゃ」

「なんで俺よりか従者のが万能なんだよ」

「ほっほ、この従者は知識も力もある、だが他の従者は絶対忠誠なのにこの者たちは違うお前とともに生まれお前が育てなければならぬ失敗すれば世界を滅ぼしたりお前の敵になるかもしれない」

「なるほど、万能だが絶対忠誠じゃないと」

「そゆことじゃな、それと魔法は教えてくれるし、魔力の供給などもしてくれる最初の方は三人いないと何もできなくなってしまうがな」

「よし決めた、その妖精二人と、それから身体能力3ptと学習能力5pt、それから魔力増加5ptと回復速度8ptと幸運5ptと属性追加3pt」

「種族選択や魔力属性選択はいいのか？」

「ランダムのが面白いしね」

「ほっほっほ、そうかならこれで晴れて転生できるの、お主の両親や友人には幸せな将来が待っておるお主も新たな世界で幸せに生きて行け」

ブログ：まずは死ぬところから（後書き）

駄文ですが今後とも改善していきたいと思います。
コメントなどもらえると喜びます。

二話目：変人ばかりの子供たち（3歳）（前書き）

どーん一話一話を重ねることに面白くなるように頑張ります。
まだまだブローグです

二話目：変人ばかりの子供たち（3歳）

はーい？はじめましてクロタムちゃんです！三歳です！

1歳からの記憶しかありません！

育ての親から聞くとどうやら俺は0歳の時に川からドンぶらこドンぶらここと流れてきたらしいです。注：この話はももたろうじゃありません！

俺はカゴと一緒に流れてきて、カゴの中に手紙と指輪が二つと男の子が入っていたそうです。

手紙には『この子をどうぞよろしくお願いします1549年4月1日クロタム』

と書いてあったそうです。

俺がこの世界について分かったことは人型の知的生物は基本的に認証カードを作ってそれを身分証明書やスキルなんかをいじるそうです、使わない時はアクセサリーにしたり、大きな街で金を払って体内に入れたりもできるこのカードは無くしたりしても魔法で手元にワープさせられるし壊れたりしても持ち主が生きてれば再生する。かなり便利です

俺が住むこの村は山にあつて様々な種族が暮らしています、孤立しがちだけど力と魔力が自慢の竜人族や魔力はないけど身体能力の高い獣人族それに精霊が見えて魔法が上手な妖精族もちろん人族もいます、俺が何に生まれたかとゆくと特に代わり映えもしない人間です。

俺の両親は二人とも妖精族のエルフです、美女美男の夫婦です、俺はまだ剣も魔法も使えない、どうやら5歳から魔法を教えてもらえ

て7歳からは剣などを教えてもらえるらしい。

「クロちゃん朝ごはんできたわよ」

母は、のほほんとした人です

「はい」

リビングに行くと母がいてお皿を並べてます

「お父さん起こしてくる？」

「お父さんは今日エルフの村に行ってるのよお」

この村の近く、といっても行きに1日半ほどかかり、森の中なので馬にも乗れないこの近くにはエルフや獣人の村がありこころへんは魔獣や魔物がたまに出てしかも森の中なので人間の村がない

「そっかあ」

神様に貰った学習能力や身体能力や魔力や従者についてだが、学習能力については村に住む78人の村人すべての名前と顔を覚えたり、身体能力は人間の子供にしては化け物じみてたけど獣人や竜人それに一部の妖精族に比べると並みだった、魔法は5歳までは教えてもらえなく、従者については俺が拾われたときに二つの指輪があつて父さんが言うには特殊な物で特定の妖精を召喚できるものらしいこれも魔法の分野なので、どうやらこれも5歳まではおあずけのよう

だ。

言葉については残念なことに日本語ではなかったけど神様の加護のおかげで楽に覚えられた、この世界では一般魔法と呼ばれる有名な魔法を使うときの言葉を標準言語にしているみたいで基本的にはどこでも通じる、他には有名な精霊（妖精）言語などもあり使う言語で魔法の特徴も変わる

「ごちそうさまでした」

「はい、今日はゼーさんがおとき話聞かせてくれるそうだから

子供は皆、丘に集合よ準備してあるから着替えてお弁当持って行つてきなさい」

「あいさ」

村の大人たちは役割分担をして仕事をしている、獣人の人やエルフなどの身体能力の高い種族の人たちが食べ物を取りに出て人間や妖精族は子供のお守りえおする、竜人は大工仕事や村の周囲でできる仕事をする、それに強い人達は周囲の魔物や魔獣を狩る、それ以外にも釣りに出る人や5歳を過ぎた子供たちに魔法を教えたり剣を教えたりする

ゼツーさんは本を沢山読むホビットで若い頃は探検者や冒険家のようなことをやっていたそうで色々な国のお話を聞かせてくれる

「ゼツーさん」

丘には既に皆が集まっていた

「おはようさんクロ坊」

「クロちゃんおはよ」

「おはよー」

「おはようございます」

「はよー」

俺の幼馴染達で、クールで力持ちで竜人族で男の子のフェル、元氣いっぱいでお金も大好きな女の子妖精族ノームのリムリ、美人な女の子妖精族エルフのノエル、多分天才な女の子人間のレレイ優しく体が大きい妖精族ドワーフのテム。

フェルとリムリとノエルは4歳でレレイとテムと俺は3歳

ゼツーさんは40台です。

「よし今日はドルガード王国のおとぎ話だ、森に住む魔獣と少年のお話だ」

ドルガートはこの村から一番近い国で海に面している行商が盛んな国だ

「おもしろかったー」

「クロはお話が大好きだなー将来は伯父さんみたいに冒険家になっていっような国の本を漁るかー」

「僕は大きくなったら、魔獣を率いて魔王つと戦います！」

リムリがクスクス笑いながら「クロがまた変なこと言ってるー」

「リムリ、クロはほかのやつに比べればだいぶ普通だと思うが」

「フェルとレイは子供なのに全然喋らないもんね」

「お前だって子供なのにお金のことばかりだろ」

「レイさんも難しい本をいつも読んでいて変わってますしね」

ボソツ「ノエルも子供の割に言葉遣いが綺麗すぎる」

「テムと俺以外は変わり者しかないいな」

「そんなこと言ったらみんな可哀想だよ」

とかなんだかんだ言いながら今日もすぎていきます。

剣も魔法もまだ未習得ながら第二の人生謳歌してます。

現在状況

クロタム 3歳 村人 人間

スキルなし

魔力属性 不明

装備

首 二つの指輪をネックレスにした物

胴 エルフの服

腰 エルフのズボン

足 村人の靴

二話目：変人ばかりの子供たち（3歳）（後書き）

長いバージョンも書いてみましたがこっちの短いバージョンのが好きだったので短めですがこちらを上げます。

人の感情や顔や態度の描写が全くないことに気づいた説明が長すぎだったり、日常風景が足りない場合はあとあと編集したいと思います。

感想などお待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0417z/>

勇者兼商人兼職人兼妖精魔導士です。。

2011年12月1日23時14分発行